

福祉だより



●発行/北六甲台地区社協●発行日/偶数月●編集/北六甲台地区広報部●配布エリア/北六甲台・上山口東

北六甲台 & 上山口東の住宅街

第98号
平成30年4月19日

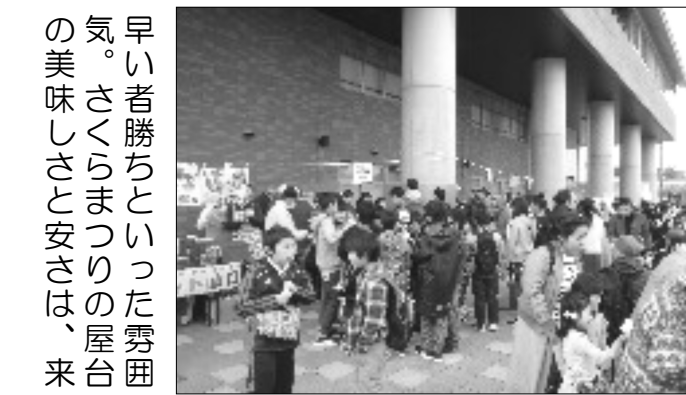
西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長 日高 昭夫



平成三十年度の”さくらまつり”が、四月七日(土)山口センターで開催されました。

花ひろのしゅつたん

今年は三月下旬から暖かい陽気が続き、そのまゝ一気にさくらが開花。“さくらまつり”まで桜は持つかしら?と、不安になりました。思いは届かず、まつり前日に風雨が降り、有馬川沿いは、すっかりさくらの花のじゅうたん。迎えた当日、急きょ会場は変更となり、山口センターでの開催となりました。



会場変更が好転に

悪天候に対応できるよう会場を変更したことに、逆に来場者は増え、どのお店も賑やかな雰囲気。開始時間から多くの来場者でこった返し、いたのは、その匂いで美味しさ誘った焼き、焼き鳥、わたがし。寒かったことも手伝って、豚汁やスープ餃子も大好評で、

早い者勝ちといった雰囲気。さくらまつりの屋台の美味しさと安さは、来



場者の皆さんに周知されていると実感しました。

また、降ったりやんだり急転する天候のおかげで、屋内のフリーマーケットや出店をゆつくり

楽しい”さくらまつり”の裏側で、企画・準備・運営と多くの方々が見え、毎年頑張っています。中学生のボランティアをはじめ、様々なボランティアの方の協力なしでは行えません。イベントが成功であればあるほど、忙しさもおさらずです。ですが、それが地域交流につながっていくこと、これこそが市民イベント最大の「魅力」ではないでしょうか。

来場された皆さん、来年はボランティアの輪に参加されては、いかがでしょうか。

(印南 由起子)



また来年も

雨にも負けず風にも負けず賑わう一日

第十六回さくらまつり



研ぎ澄まされた五感で美を織りなす キルト講師 家元 純子さん



毎年、上山口東自治会文化祭に素晴らしいキルト作品を展示されている家元さん。とても気さくにパッチワークキルトについてお話下さいました。

子どもの頃から手工芸が好きだったという家元さん。「器用な母に手ほどきを受けました」とのこと。また、ご近所にあった編み物教室に遊びに行っ

ては編み物でお人形などを作っていたそうです。

そんな家元さんがパッチワークキルトに出会ったのは、今から四十年ほど前のこと。「インテリ

ア雑誌に載っていたクッションを作ったら皆に褒められて」。ちょうどその頃、第一回のパッチワークキルト講師養成講座の募集を見て、早速応募されたそうです。

「あん」の主催者である安齋さんが、つどい場を始めたきっかけは、ご自身の実父の介護経験から。介護保険のこと、施設のこと、在宅介護のこと、尊厳死のこと、地域

のことで、知れば知るほど介護する人も介護される人も、共に暮らす外へ出て学び合い、役立ちあい、孤立しないよう互いに交流すべきだと感じ、自宅を開放してつどい場を始められたそうです。

男の料理

初めて訪問し、普段閉じている門が開かれ、案内看板を見てホッと一安心。居間に案内されると、台所で安齋さんのご主人が様々な料理を作っておられました。

献立は、開催日の二



つどい場はご主人(右)が料理人

つどい場「あん」からのお知らせ

- ★5月17日(木) さくらFM(78.7MHz)に出演します。20時45分~21時頃、オンエア予定。
- ★今年3月、地域福祉を応援している団体「親切会」さんより、寄付をいただきました。



がうまく調和しており、貴重な”居場所”であると感じました。

(広報部・小出 晴浩)

第二回 福祉講座

介護保険のしくみと手続き

三月三日（土）一時半より北六甲台コミセンで「福祉講座」を、高齢者あんしん窓口・山口（山口地域包括支援センター）職員の原さん、谷掛さんを迎え開催しました。



初めに、あんしん窓口・山口が行う主な業務の紹介がありました。①介護保険に関する相談・支援、市の福祉サービス、認知症の予防・支援、②介護予防の要支援者のプラン作成など、③権利擁護など、です。その他、地域包括ケアシステム及び、地域ケア会議の概要、の説明がありました。

今回は、介護保険の仕組みと手続きの方法を主に話して頂きました。内容の一部を紹介します。

◆介護保険の仕組みとして、六五歳以上の方は介護が必要と認められたとき、介護サービスを受けることができます。

◆「要介護認定をどう受けるの？」

市の高齢福祉課に申請。あんしん窓口・山口でも代行申請ができます。

◆申請に必要なもの
介護保険者証、主治医の意見書など。

◆「要介護認定を受ける手順は？」

まず、申請後に訪問調査があります。体の動きや意思疎通などを状況確

ボランティア交流会

手話高座受講者の手話も披露

二月七日水十一時十五分より「パスタカフェ・ONS」でボランティア交流会を開催しました。十一時入店が決まりでしたが、寒い季節柄、店主の配慮で十五分前に入店させて頂き、地域のお店を利用することの良さを感じました。二階シアタームでボランティア三十五名が参加し、田中副会長の司会で進められました。



動できなかった理由として、①連絡があったが都合がなかった（八名）、②登録時に希望した活動依頼がなかった（五名）、◆施設・学校・地域行事などへの参加希望（四十名）となり、感心の高さが窺え、ボランティア情報全員に伝えることの難しさという課題が見えました。

その後、社協研修部の手話講座の受講者五名で、これまでに習得した手話を披露して頂き、聴障害を持たれた方への思いが伝わりました。例えば、拍手は両腕を上げ、きらきらするそうです。

うちとけた雰囲気でも事終えることが出来、交流の大切さが感じられた会になったと思います。

（ボランティアセンター
・井上 さち子）

「アロマへんごつフォーラム」開催

三月七日（水）山口ホールにて、山口地域全体を対象とした初めての福祉活動発表会が開催されました。山口地区ボランティアセンターのコーディネーター魚留さんの司会で始まり、西宮市社会福祉協議会の高田さんと発表者五名とのパネルディスカッション形式で、次のような意見が発表されました。

◆前田 勝年さん
「引きこもりにならないために、本人の意見を尊重して聴き、交流を図るようにしている。」

◆兼信 正法さん
「定期的な、認知症に関する講座を開催している。」

・自治会と事業所施設が一体となって認知症予防に取り組んでいる。



地域取組みを語る兼信正法さん

◆田平 稔さん
「いきいき体操、月二回の清掃と廃品回収活動で、活性化を図っている。」

◆和代 志子さん
「安心キットの定着が進み、地域の見守り改善になっている。」

◆山口地区障がい児者の親の会（パズルの会）

◆藤原 恭子さん
「子どもが成長すると、

交流懇親会

進学等の上下の道筋が親として気になる。

・山口地区の代表として、北部地区の意見を生かして行きたい。

九か所のテーブルに分れ、自己紹介をしたあと、地域の話題であつたと言う間の三十分が過ぎました。最後に、今回の出席者が一〇五名ということで、関係団体、施設関係者の皆様、多数ご参加いただき、ありがとうございます。

（広報部・小出 晴浩）

各地区相互の意見交換



あつたか見守り声掛け訓練に参加！

三月十一日（日）社協東山台分区主催の「あつたか見守り声掛け訓練」に参加しました。街で認知症の方を見かけた時の声のかけ方の模擬訓練です。

会場のナシオンホールには主催者を含め約百人近い参加者でした。

最初にミニ講座があり、声掛けのタイミングやポイントなどを聞きました。訓練の進め方の説明のあと、東山台の住宅街で実際の訓練です。

参加者は二人ペアで、認知症役のスタッフに声をかけます。スタッフは介護施設職員が多く、認知症の方の日常的な交流があり巧みに認知症役をこなします。相方が「こんにちは」と声をかけたものの後が続かず言葉が出ません。気まずい沈黙が続いて認知症役のスタッフも不安げな対応

に終始します。いざ声を掛けるとなると本当に言葉が出ないものです。

私の番です。相方の失敗を参考にひたすら言葉を発することに努めます。

「こんにちは」「暖かくなりましたね」「どこにお出かけですか」「いつも行くお店はどこですか」

等々。一時間近い訓練を終えて会場に戻り、温かいぜんざいを頂きながら振り返りの懇談会。誰もが異口同音に「言葉が続かない」ことの大変さを口にします。おしゃべりが苦手なリタイヤオヤジには、実際の声掛けにヒントとなるようなトーク事例を紹介してもらえればと思います。

認知症サポーター養成講座等の座学だけでなく、街角での声掛け訓練の必要性をあらためて痛感しました。（会長・日高昭夫